FGC NEWS

No.6 March 2015

一般財団法人 世界こども財団
FGC ～Foundation for Global Children～

東日本大震災支援活動

- 相馬地区で特別講座
- 相馬市の小学生、芦別へ

海外支援活動

- スポーツ支援
  エリトリアへ
- 留学生来日
  ミャンマー、ブータン

特別講座―全国の講師陣が集う

一般社団法人学習評価研究所
松浦　三郎

相馬高校特別講座は、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故により、多くの困難に直面した福島県相馬地方の高校生支援を目的に、2013年5月より始まりました。

未来を担う高校生に、学ぶ場と学力を確保し高めていくことは福島の復興に直結する課題です。他方、それを担う教員も地域住民も被害者であり大きな困難を抱えています。こうした状況の中で、立命館大学教育研究・研修センター、一般社団法人学習評価研究所が中心となり、教育、特に授業面での支援を目指す事業を立ち上げました。東京大学医科学研究所の上研究室、星槎グループ・一般財団法人世界こども財団が活動を支援しています。

具体的には、優れた授業を実践している教員を全国から集め、授業を行うことによって生徒に学ぶことの楽しさを知ってもらい、現地の教員とともに授業方法を研究し、授業力を高めていくことを目指しています。

講師はボランティアで参加し、その交通費と宿泊場所の提供を星槎グループ・世界こども財団が担当しています。初年度は9人の講師により10講座を開催。高校1年生の希望者248人が受講しました。

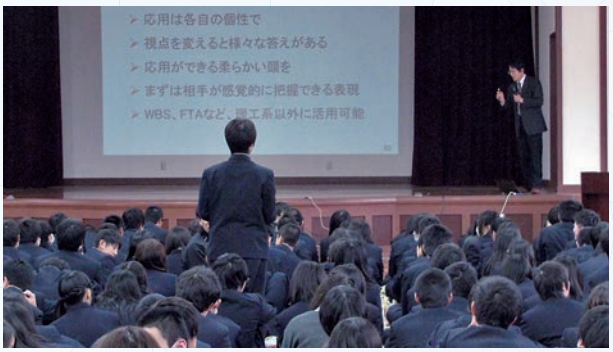
2014年度は、高校1・2年生（約200～400人）を対象とした進路講演会を全5回開催しました。

	講　師	講座テーマ・内容
第1回 7月	水野 彌一 先生 京都大学アメリカンフットボール前監督	「一瞬を重たく生きる」
第2回 10月	下垣 真希 先生 名城大学講師（ソプラノ歌手）	「音楽は心のビタミン剤」
第3回 12月	平子 敬一 先生 宇宙航空研究開発機構前プロジェクトマネージャー	「人工衛星入門」
第4回 2月	北原 達正 先生 京都大学講師	「ロボカップJr.世界大会」
第5回 3月	森 忠彦 先生 毎日新聞社編集委員	「新聞から日本の未来を考える」

【受講生徒の感想】

●話を聞くことがこんなにも、心の底から奮い立たせてくれるとは思わなかった。

●自分が変われば、人生だって変われるということを改めて再確認できた。



質疑応答も活発です

●チャンスは二度と戻らない。失敗は自分の努力で解決できる。

●世界に旅立ってみたくなった。世界は音楽でつながっていると感じた。

●この講義を通して、いかに自分が小さく、いかに宇宙が広大であるかを実感できた。

生徒へのアンケートの結果、5段階評価の5（とても良かった）と4（良かった）が75%で、講座はおおむね好評でした。しかし、会場の音響、映像、空調の不具合、また一部の生徒からは受験対策を期待していた点などが指摘され、次年度への課題も残りました。

また、今年度は12月25日、26日に冬期特別講座（全3回）を、相馬市の隣町にある新地高校で開催しました。

	講　師	講座テーマ・内容
第1回	野中 潤 先生 聖光学院中学・高等学校教諭（国語）	「近現代詩をよりよく味わうために―群読による詩の鑑賞」
第2回	冠木 友紀子 先生 白百合女子大学（英語）	「通訳トレーニングで英語マスター」 「クリスマスの歌、O Holy Night でマスターする英語のリズム」
第3回	河内 一樹 先生 灘中学・高等学校教諭（数学）	「計算に強くなろう」 「ゲームの必勝法を探ろう」

この2年間、相馬高校を中心に29人の講師の皆さんがボランティアで汗を流してくれました。講師陣からは「相馬で新たな発見と感動を手に入れ、自らを成長させる好機に恵まれた」とのうれしい言葉をいただきました。

サッカー教室、指導者講習会などを開催

1月17日と18日、東日本大震災にかかわるサッカー活動交流支援を福島県相馬市で開催しました。3回目となる今回のプログラムは、「奥寺カップU-9、U-11」をはじめサッカー教室、ヨガ教室、指導者講習会です。

日本サッカー協会の大野氏によるサッカースクール

17日の午前中、「奥寺カップU-9、U-11」を開催。大勢の保護者が応援する中、熱戦が繰り広げられました。入賞チームには表彰状と練習用具を贈呈。女子選手の参加も目立ち、相馬市でのサッカー人気の高まりを感じました。

その後、小学3年生以下のこどもたち（U-9）を対象としたゴールキーパー練習を行いました。担当したのは星槎学園高等部スポーツアカデミーコースの平田涼コーチです。「みんなもゴールキーパーをやってみよう」と声をかけたところ、約50人も集まりました。これには平田コーチもたじたじ。ボールを投げて取るという基本的な練習から、横っ飛びでキャッチするような練習（人工芝で転んでも痛くない！）まで楽しみながらキーパーの動きを学びました。最後はみんな、すっかり平田コーチに懐いていました。

午後はU-13、U-14の相双地区トレセンの選手たちを対象としたサッカースクール。東日本大震災後、継続して相馬市での指導を行っている日本サッカー協会技術強化部長の大野真氏によるものです。世界こども財団から派遣した平田コーチと東京大学蹴球部の皆さんがサポートしました。

平田コーチ（左）のキーパー練習に集まったこどもたち

畑監督の講演会

サッカー指導者のためのヨガ教室

練習終了後は大野氏とこどもたちで練習の反省やこれからの目標などについて話し合いました。大野氏は「日本サッカー協会としての震災支援活動は5年間で一区切りなので、あと1年です。でも僕は相馬が好きだからずっと来るけどね」と話してくれました。

18日は、前日に引き続き大野氏による各年代へのサッカースクールが行われている中、クラブハウスでは広島県立安芸南高校サッカー部の畑喜美夫監督の講演会が行われました。サッカー指導者を対象に、生徒の自主性を大切にする「ボトムアップ理論」をテーマに話を聞きました。「勝ったときに選手より監督が喜んだり、負けたときに選手より監督が悔しがるようでは監督のためのチームになってしまう。それでは自主性が育まれない」という言葉が印象的でした。

また、両日ともクラブハウスではヨガ教室が行われ、一般の方やサッカー指導者の方が参加しました。眠りを深くするヨガではお疲れだったのか、サッカー指導者の方はその場でグッスリ。誰が最初に寝たとかで盛り上がっていました。

風が強く寒い2日間でしたが、サッカーを通してたくさんのことをこども達に学んでほしいという熱い想いを持った指導者の方、施設の方に出会えました。

相馬市の小学生、「北の大地」で雪遊び

クリスマスケーキづくりも

12月23日～28日、福島県相馬市の小学生39人と保護者4人が、北海道芦別市にある星槎国際高等学校本部校にやって来ました。2012年から星槎グループと芦別市が共催している東日本大震災の避難者受け入れ支援事業「北の大地に会いに行こう」の冬期コースで、今年5回目になります。

23日に相馬市を出発し、フェリーとバスを乗り継いで芦別に到着したのが24日。清澤茂宏芦別市長らが出迎えて歓迎式を行いました。翌日はクリスマスということもあり、最初のプログラムは「クリスマスケーキ作り」からスタートしました。グループごとにケーキをデコレーションしました。自分たちで工夫をして、イチゴを上手にサンタクロースに変身させたグループもありました。

午後には学校のグラウンドで雪遊び。この日のために町内の方がグラウンドに大きな雪山を2つ作ってくれました。こどもたちはみなグラウンドを駆け回ったり、雪山で滑り台を楽しんだり、かまくらを作ったりと、寒さを忘れて楽しんでいました。

今回のプログラムのメインイベントは「スキー」。ほとんどのこどもがスキーは初体験でしたが、少し板に慣れてくると皆リフトで頂上に上がり、上手に滑ってくることができました。午後には全員がリフトに乗ることができ、終わるころには、「まだ滑りたい！」「明日もやろう!!」という声がたくさん聞かれました。

夜の自由時間もこどもたちは皆元気！ゲームを楽しむ子や星の島の羊毛でフェルト小物を作る子など、思い思いに楽しんでいました。

芦別での最後の食事は、恒例になりつつある「大バイキング昼食会」。北海道名物ジンギスカンやパスタ、芦別市役所の方が焼いてくれたたこ焼きなど、メニューも盛りだくさんです。本事業を応援してくれた方々がみなさん駆けつけてくれたので、交流もたくさんでき、お腹も心も大満足の昼食会となりました。

5泊6日、大きなトラブルもなく、こどもたちの笑顔があふれる「北の大地に会いに行こう」になりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

歓迎の挨拶をする清澤芦別市長

ケーキ作りも楽しみました

グループ毎に工夫したデコレーション

芦別市街を望みながらスキーを楽しみました

芦別の皆さんと交流しながらの昼食会

参加者の感想

小学校３年　菅野潮音さん

私が一番楽しかったことはスキーです。最初は滑れなかったけど、先生に教えてもらってできるようになりました。リフトにも乗れるようになりました。あまり経験できないのですごくおもしろかったです。また、スキー場に行ってリフトにもっと乗りたいです。

それから友達もできました。また今度来たときは、もっと友達を作って、仲よくなりたいです。

福島原発とビキニ水爆の3作品

ボストン日本映画祭に協賛

参加者にFGCニュースや活動報告の英文版等も配布

10月19日、米国ボストンのマサチューセッツ工科大学（MIT）で、「ボストン日本映画祭」が開かれました。FGCでは、東日本大震災の福島第一原子力発電所事故に関連した映画3作品を上映する本映画祭の趣旨に賛同し、協賛団体として開催を支援しました。FGCの評議員で、主催団体のメンバーでもあるボストン在住のリッフ雅映子さんのレポートをお届けします。

リッフ雅映子さん

FGCの活動を紹介するリッフさん

ボストン日本映画祭のチラシ

震災から4年。被災地への支援を継続して行っている方は、ここボストンにもたくさんいます。学生、ビジネスマン、主婦、起業家、教授など年齢や職種もさまざまです。そのような方々が協力し合い、在ボストン日本国総領事館や日本協会などの後援を得て、本映画祭を開催しました。

ボストンで映画祭を開く理由はいくつかあります。日本から離れたアメリカに住んでいると、東北で起きていることの情報量が少ないです。であれば、自分たちで機会を作り、東日本大震災の影響を受けている方々のことを知り、感じる機会を作りたいと思いました。また、ボストンの南東約64kmのプリマスという町にも原子力発電所があります。日本で起きたことからボストンに住むすべての方に学んでもらいたいと考えました。

映画祭では3本の映画を上映しました。福島第一原子力発電所があった双葉町の住民の方々の避難生活を追った『フタバから遠く離れて』と『放射能』（共に、船橋淳監督）、1954年に起きたビキニ湾水爆実験で被爆をした日本人を追った『X年後』（伊藤英朗監督）です。船橋淳監督には日本からお越しいただき、メディアでは伝わってこない双葉町の方々の声や日本の原子力政策を会場で講演していただきました。

会場には120人以上の参加者が集まり、立ち見状態でした。小学生くらいの子どもから、大学生、大学教授、ビジネスマン、アーティストまでさまざま。「未だにプライバシーもないような避難所で生活をしている方々がいるとは知らなかった」「ある日突然家に帰ることができなくなった方々がいる。アメリカにいるとそのような方々の気持ちを想像しようとすることも忘れてしまうので、映画を観られてよかった」などの感想が聞かれました。

映画祭で講演する船橋監督

映画祭の冒頭、世界こども財団が行っている福島での支援活動を紹介しました。活動の報告書や財団が発行したロハスメディカル『相双メディカル』を配布。東北で起きていることを、映画とはまた異なる視点で知っていただけたと思います。

【主催団体】
The Urban Risk Lab at MIT、JREX、TEWASSA、さつき会USA

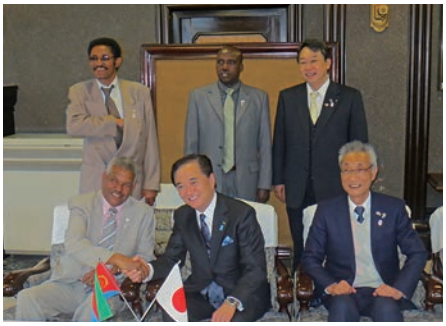
【スポンサー】
星槎グループ・一般財団法人世界こども財団、一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議、Fish Family Foundation

【エアラインスポンサー】
日本航空株式会社

【後援】
在ボストン日本国総領事館、ボストン日本協会、ボストン日本人会、ボストン日本人研究者交流会、ボストン日本女性の会

陸上競技をサポート

東京オリンピックに向け


黒岩祐治神奈川県知事を表敬訪問

城内実外務副大臣を表敬訪問

外務省、JOC、日本陸連関係者が集まった城内副大臣主催の昼食会

宮澤保夫専務理事は2014年9月、エリトリア国の首都アスマラを訪問しました。城内実外務副大臣立会いのもと、2020年に向け同国のオリンピック・パラリンピック大会参加を支援するため、同国オリンピック委員会（Eritrean National Olympic Committee）と覚書を締結しました。

調印式には同国のスポーツ関係者をはじめ、多数の政府関係者を含む100人以上が出席しました。スポーツ分野での日本からの支援、日本との交流への期待の高さを物語っています。現地新聞も本覚書の意義を大きく取り上げ、キーパーソンのコメントを紹介していました。

ERITREA PROFILE

Vol. 21 No. 33 Wednesday, 17th of September, 2014 Pages 8 Price 3.50 NFA

PRESIDENT ISAIAS HOLDS TALKS WITH JAPANESE DELEGATION

President Isaias Afworki received and held talks with a Japanese government delegation headed by the Deputy Foreign Minister, Mr. Minoru Kiichi on the 15th of September 2014.

After delivering a message from Japanese Prime Minister Shinzo Abe, Mr. Minoru Kiichi commended Eritrea's cooperation with his country as regards international affairs, and expressed conviction that Eritrea would support Japan's endeavors to secure a seat in the UN Security Council.

President Isaias indicated that Eritrean-Japanese cooperation in the domains of education and vocational training, as well as in different sectors connected with private investment need to be accompanied with concrete steps. In connection with Japan's bid to join the UN Security Council, he underlined that Tokyo should play constructive role in the UN Security Council in line with its influence.

The two sides agreed to promote constructive engagement in various domains. Present on the occasion were Foreign Minister Osman Saleh, Mr. Yemane Gebremeskel, Director of the President's Office, and the Eritrean Ambassador to Japan, Mr. Estifanos Afworki.

エリトリアの新聞記事

●教育大臣セメレ・ルッソム氏：「スポーツばかりでなく、エリトリア・日本の関係強化にとり、この覚書の意味は大きい」

●スポーツ・コミッショナー、ゼメデ・テクレ大使：「エリトリアでの文化・スポーツ促進に果たす日本の役割は大きい。併せて、2020年東京オリンピック・パラリンピックで実績を残せるよう、エリトリアとしても必要な準備をしっかりと行う」

9月のアスマラ滞在中は、パラリンピック委員会を含むスポーツ関連団体とのミーティングや施設の視察も精力的に行いました。また、オリンピック委員会には青少年のスポーツ振興策として1万米ドルを寄付しました。

一方、イサイアス大統領、オスマン・サレー外務大臣等との会談もセットされ、将来を見越した大きなテーマでの意見交換も行われました。

帰国後は、覚書に基づく具体的な実施項目を、外務省をはじめオリンピック・パラリンピック東京大会推進室など各方面と協議を重ねてきました。

それを受けて2月9日から14日まで、エリトリア・オリンピック委員会のメハリ・テスファイ委員長、陸上競技連盟のタデッセ・ゲブル事務局長、陸上ナショナルチームのリビングストン・アブラハム監督を日本に招聘しました。

滞在中は宮澤専務理事同行のもと、外務省、日本オリンピック委員会（JOC）、日本陸上競

日本陸連を訪問。前列左が横川浩会長

滞在中、赤ちょうちんも楽しみました

新幹線移動も体験。右からメハリ氏、ダデッセ氏、リビングストン氏

NTC のレスリング練習場

NTC の特注ジム器具。NTC を案内してくれた JOC 強化部の工藤誠司氏

NTC のバスケットボール練習場でプレーするメハリ氏は元バスケ選手

ナショナルトレーニングセンター（NTC）を視察訪問

技連盟、有力実業団陸上チーム等とのミーティングを精力的にこなしました。直前に行われた別府大分毎日マラソン大会でエリトリア選手が優勝し、長距離陸上界での同国の実力が実証されたこともあり、非常に前向き且つ建設的な話し合いができました。

また、2020 年に向けてスポーツ使節団のキャンプ誘致を積極的に進める神奈川県の黒岩祐治知事、そして県西部の候補地である小田原市と箱根町の商工会議所会頭のご手配により、小田原市長、箱根町副町長とも会談を行い、キャンプ招致を含めた具体的なミーティングを行うことができました。

県西地区には星槎グループの星槎箱根キャンパス、星槎大磯キャンパスがあります。使節団はそれらを併せて視察し、施設の充実度や利便性も含め、キャンプ地として肯定的に検討することになりました。それぞれのキャンパスでの温かい歓迎や星槎職員の同国への関心の高さにも感銘を受け、大いに感謝していました。

また、トップレベルの選手養成のために造られた「ナショナルトレーニングセンター」（東京都北区）も視察しました。そこでは最新の国際基準を取り入れた練習施設、科学的検証に基づくトレーニング方法等を実地で学ぶ機会も得ることで感銘を受けていました。

今回の視察の結果、エリトリアのトレーニングセンターに設置するジム機器の購入支援や、国際陸上競技連盟認定指導者資格の取得を目指すコーチ養成のための支援等を具体的に進めることになります。

エリトリアはアフリカの中でも貧しい小国ですが、国民は勤勉で治安も安定しています。適切な支援があれば、将来に向け着実に発展して行く国です。当財団としては息の長い支援を展開していく考えです。

星槎箱根キャンパスも視察

関東の先進事業を現場体験

「ミャンマー・デイ」で茶道を体験

ミャンマーから５人来日 短期留学プログラム

第２回のミャンマー短期留学プログラムを、2014年11月30日から12月13日まで実施しました。ミャンマー国内の国立大学から選抜された、理系専攻の教授、講師、学部生３人の合わせて５人が来日しました。

今回のプログラムは、留学生達の希望を受けて、日本の製造業の様々な工程を体験することに重点を置いて構成しました。さらに、星槎ならではの体験として、星槎の理念や共生社会に向け私達が行うべきこと、日本の文化や歴史、人々との交流についても組み込んだ盛りだくさんのプログラムとなりました。

宮澤会長は、「ミャンマーは今まさに伸びようとしている、昔の日本のようだ。皆さんが頑張って学べば、ミャンマーはあっという間に日本に並び追い越していくような国になる。それは皆さんの役割です」と留学生達に激励の言葉を送りました。

参加した学生達は、自身の興味関心の高い分野や専門とは異なる分野が両方見学できたことにとても満足した様子で、どの訪問先でも熱心に積極的に質問していました。

かつて他のプログラムで日本に来たことのある教授は、「こんなにも人の温かみを感じるプログラムはなかった」と、多くの人との関わりに終始感激していました。

まとめのディスカッションでは、日本の製造業をはじめ見学した学校や施設で学んだことは何か、どんなものが付加価値を付けているかについて５人で熱心に話し合い、修了式のスピーチで１人１人が発表しました。星槎の理念、３つの約束を母国に持ち帰り、将来実践することを約束してくれました。

見学企業一覧

企業名	業　種	見学内容
株式会社明輝 （神奈川県厚木市）	金型設計・制作	金型とは、企業の成り立ち、企業理念、工場見学
東京電力株式会社 （神奈川県川崎市）	電力会社	太陽光発電所、火力発電所の見学
公益法人神奈川科学技術アカデミー　光触媒ミュージアム （神奈川県川崎市）	素材	光触媒ミュージアムの見学、計測センターの見学
山梨県立リニア見学センター （山梨県都留市）	交通	リニアモーターカー試運転見学
NEC プラットフォームズ株式会社 （山梨県甲府市）	ICT 機器開発・製造	企業概要、企業理念、開発製品の説明、サーバー組立工程の見学
コニカミノルタ株式会社 （東京都日野市）	複合機開発・販売・製造	新オフィスの見学
株式会社ブリヂストン （東京都小平市）	タイヤ開発・製造・販売	企業の歴史、理念、タイヤ開発工程、デザインデモ見学、リトレッドセンター見学
社会福祉法人悠々園 （東京都町田市）	特別養護老人ホーム	施設見学、ボランティアの皆様との交流、高齢社会に関する意見交換
医療法人社団 KNI 北原国際病院 北原リハビリテーション病院 （東京都八王子市）	医療	病棟、畑など病院とその周辺施設見学、病院の理念とその実践についての説明、独自の制度の説明
東芝未来科学館 （神奈川県川崎市）	博物館	東芝最先端技術の紹介・展示

表敬訪問先

神奈川県庁	黒岩祐治県知事への表敬訪問
在日ミャンマー大使館	参事官への訪問
川崎市商工会議所	会頭、専務、事務局長への表敬訪問、会食

交流プログラム・文化体験など

訪問先	交流内容
星槎中学高等学校 （横浜市旭区若葉台）	「ミャンマー・デイ」と題して、中高生徒、保護者、地域の自治体やサークルの皆様との交流。ダンスの披露や、餅つき、茶道体験、手巻き寿司、和太鼓体験など
星槎大学 （東京都八王子市、横浜市）	共生科学に関するレクチャー 保険制度、福祉を取り巻く環境に関するレクチャー
東京江戸博物館 （東京都浅草）	東京の歴史と文化を体験できる博物館を見学
星槎大磯キャンパス （神奈川県大磯町）	全国 PCS 会議にて、星槎の教職員と、互いの文化に関する質疑応答
高尾山 （東京都八王子市）	高尾登山・薬王院見学など

東電火力発電所を見学

ブリヂストンを見学

リニア見学センターでは
リニアの試運転も見学

無線タワーを寄贈

世界こども財団は、2014年6月にミャンマー保健省に緊急医療・巡回医療を支援するため、救急車2台を寄贈しました。

この2台には通信機がセットされており、本部や拠点病院との交信が取れ、フレキシブルな運用ができます。ただ、現状では電波の届く範囲が限られているため、その機能が十分に発揮されているとは言えません。

そこで、通常の近郊業務や巡回医療の充実等を図るため、この度保健省と協議の結果、無線中継機を設備した15mのタワーを追加寄贈することになりました。

タワー自体は完成し、近くミャンマーへ向け出荷されます。これを首都ネピドーの高台に設置すると、無線の交信範囲が半径150 kmまで拡大され、救急車の運用がより効率的になります。また、このタワーはミャンマー国内の他の通信機能強化にも使用でき、早期の設置・完成が期待されています。

バングラディシュ

縫製工場が始動へ

アグラサーラ孤児院を支援

世界こども財団が株式会社矢部プロカッティングと協働で進めている、バングラデシュの縫製工場「SEISA SEAGULL AGRASARA GARMENT」がいよいよ始動段階に入ってきました。チッタゴンにあるアグラサーラ孤児院の自立運営を目指す工場です。

2014年8月に工場のトイレと電圧の工事も終わり、設備は完成。9月末には孤児院のこども達も手伝って縫製機器などを搬入し、近々縫製指導が実施できる運びとなりました。あとは最後の難関である業界組合、バングラデシュ縫製品製造業・輸出業協会（BGMEA）に加盟できれば、晴れて工場が稼働します。

孤児院を資金、食料、衣料等の物資面で支援することは簡単です。しかし、こども達はいずれは孤児院を巣立っていかなければなりません。その時に自立できる技能・才能を身につけていなければ、非行・犯罪に容易に走ったり、健全な社会人となるのが難しい事態に追い込まれてしまいます。

この縫製工場は、孤児院のこども達が自立する術を身につけ、今度は孤児院を、そして社会を立派に支える一員になるための大切な機会を提供できるのです。ただ、息の長い支援、特に人材支援が必要となり、当財団は継続的に関わっていきます。

ミシンが設置された工場内部

ミシン類を運ぶアグラサーラの子どもたち

大学生が10日間の短期留学

星槎グループはRoyal Thimphu College（ロイヤル・ティンプー・カレッジ、以下RTC）の短期留学生を受け入れており、今年度も男性6人、女性2人の学生と引率の先生が1月26日から10日間、来日しました。

ブータンではGNH（国民総幸福量）が提唱されており、その取り組みと星槎の目指す「共生」は共通している部分も多く、お互いの発展的な交流を目的としています。拠点となる星槎高尾キャンパスは、毎年留学生を受け入れており、英語での案内や対応は万端です。

滞在中は、星槎グループ総出で彼らを歓迎しました。劇団新制作座による「星の槎」の歌のレクチャーにはじまり、高尾キャンパスの高校生とのサッカー交流。星槎グループ・世界こども財団スタッフや星槎大学の教員の引率の下、神奈川県小田原市の生命の星・地球博物館や神奈川県大井町の太陽光発電所、東京都内では多摩動物公園、有明のりすうぴあ、品川区のITベンチャー企業などを見学し、日本のテクノロジーや文化、思想を学びました。また、星槎大学教員との交流パーティーや、TV会議を利用した大学の講義「共生科学実践演習」へも参加しました。

RTCの学生たちは環境や人間性の面で感銘を受けたようで、テクノロジーの発展と環境の悪化は必ずしも比例しないことに驚いていました。国を発展させるために、国民がどういうスタンスで日常を過ごしているかがとても勉強になったようです。

経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさがあるからこそ、経済も発展しながら環境も保全していけることに、彼らは目を輝かせていました。

滞在最終日、RTCの学生たちは「日本からたくさんの事を学びました」と話していました。全行程を通して接してきた星槎グループのスタッフ一同が「星槎の心」を以て接した結果、生まれた言葉だと思います。

日本の良さを熱心に学ぼうとするブータンの留学生たちは、日本人が当たり前に感じている事、当たり前に振る舞う姿、便利である事すら忘れてしまっ

多摩動物公園で坪内俊憲准教授の解説を聞く学生たち

お別れ会では踊りや歌を披露

星槎学園湘南校で高校生たちと交流。書道にも挑戦

お別れ会で井上一評議員（学校法人国際学園理事長）から一人ずつ修了証を授与

ているもの、そういった事象に対してとても新鮮な反応を見せてくれました。それは彼らが「精神的な豊かさ」の発展を追求する国から来たこと、自分たちの国に少しでも日本の良さを還元しようとする彼らの心があったからこそ見られた反応だと思います。

彼らの精神は、正に星槎の掲げる「共生」に通じ、国を越えて交流することが、お互いの国の発展につながる鍵になることを改めて感じました。

陸上長距離の選手養成を支援

当財団では、これまでにキンザン、ペマの高校生の両君をサッカー留学で2年間受入れ、スポーツを通じたブータン王国の青少年育成に寄与してきました。

2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京に決定したのを機に、同国政府の要請でマラソン等の長距離陸上競技でも選手育成の支援をすることになりました。

具体的には日本陸上競技連盟と協働し、経験豊富なコーチを同国へ派遣、有能な若手選手を発掘してもらいます。その上で日本に招聘し、有力実業団チームでトレーニングを積みながら、各種選手権等にも参加し、素質・能力をのばして頂きます。

また、引退後には自身の経験を活かし、コーチ、トレーナーとして次世代の選手育成を担い、同国の陸上競技層、スポーツ層の裾野拡大に尽力してくれることを期待します。

目に見える成果が短期的にあがる支援ではありませんが、青少年の健全育成には大事なものであり、GNH（Gross National Happiness、国民総幸福量）で国力を計るブータン王国からは大きな期待を受けている支援です。

「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

たくさんのご寄付をお寄せいただきました
心より御礼申し上げます

2014年1月～2015年1月末現在

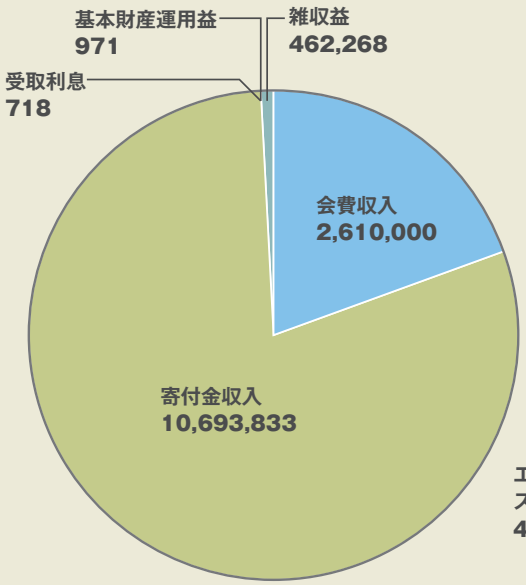
寄付モノ	（円）	寄付コラボ	（円）
櫻井幸雄 作「出番のないベンチ」カレンダー	48,000	「地球博物学大図鑑」売上より	2,000
衣類	9,239	写真集「大磯の蝶」売上より	700
本	322,166	加藤登紀子様「ほろ酔いコンサート」チケット売上より	124,500
はがき	190,140		
切手	251,920	「ミネルヴァのふくろうと明日の日本」売上より	39,384
カード類（テレカ・図書カード・各種金券等）	21,605	自動販売機（メーカー17社）売上より	1,693,273
合　計	843,070	合　計	1,859,857

貴重なご厚志は、世界のこどもの健康と教育環境の向上に役立てることをお約束します

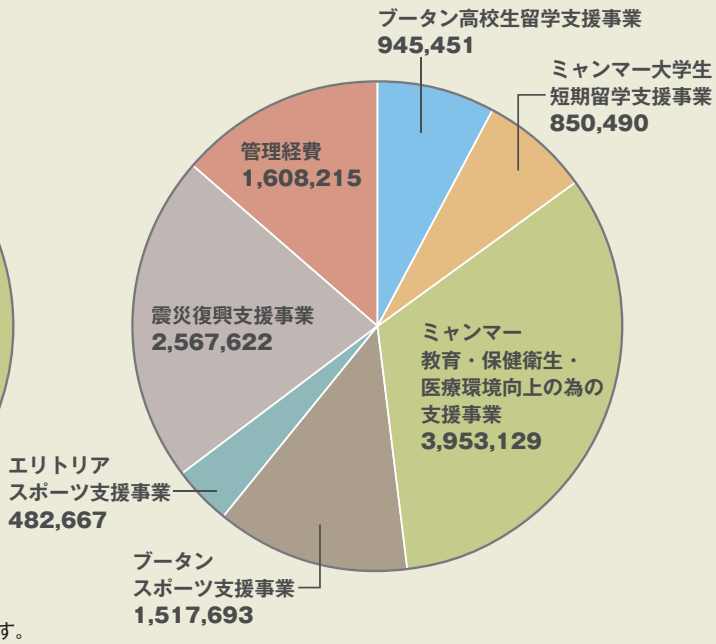
事務局より

事業活動収支報告（2014年1月1日～12月31日）

収入【13,767,790 円】



支出【11,925,267 円】



※上記内訳は、「2014 年度収支報告書」に基づき算出されたものです。
※この他、外貨現金にて 4,460.00 米ドルのご寄付をいただいております。
⇒お預かりした外貨現金については、年度末に日本円に換算し、上表の寄付金収入に盛り込んでおります。

【ご協力いただいている企業・団体様（順不同）】 2014 年 9 月～ 2015 年 1 月末現在

●アマチュア無線関係の皆様 ●東京大学医科学研究所・上研究室 ●㈱トキコ・プランニング ●HBC 北海道放送㈱
●リブ・アクティブ ●フルサワ印刷㈱ ●みらいコンサルティング㈱ ●鈴廣かまぼこ㈱ ●㈱ルミネ ●㈱ルミネクリエーツ
●シーフォー㈱ ●エピナール ●ヤンセンファーマ㈱ ●㈱八洋 ●パンの蔵 ●友月堂 ●㈱ LEOC ●㈱明輝
●東京電力㈱ソーラープラント川崎エコ暮らし未来館 ●東京電力㈱川崎火力発電所 ●川崎青少年の家
●公益法人神奈川科学技術アカデミー光触媒ミュージアム ●川崎市商工会議所 ●東芝未来科学館
●山梨県立リニア見学センター ●NEC プラットフォームズ㈱甲府工場 ●医療法人社団 KNI 北原国際病院 ●社福法人悠々苑
●コニカミノルタ㈱八王子研究開発オフィス ●㈱ブリヂストン ●国際ソロプチミスト二宮 ●㈱DOE ●教育出版㈱
●国際デュアルビジネス専門学校 ●㈱バリューブックス ●㈱ダイドードリンコ ●西武商事㈱ ●サントリービバレッジサービス㈱
●コカ・コーライーストジャパン㈱ ●コカ・コーラウエスト㈱ ●北海道コカ・コーラボトリング㈱
●北海道キリンビバレッジサービス㈱ ●北海道ベンディング㈱ ●㈱ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事㈱
●㈲安田コーポレーション ●大蔵屋商事㈱ ●高尾の森わくわくビレッジ ●神奈川県立生命の星地球博物館
●大井町太陽光発電所きらめきの丘おおい ●㈱古川 ●いこいの森あしがら ●建長寺 ●梓想庵 ●多摩動物公園
●パナソニックりすうぴあ ●カディンチェ ●神奈川県 ●大磯町 ●大井町
●駐日エリトリア大使館 ●駐日ミャンマー連邦共和国大使館 ●一般社団法人日本ミャンマー協会

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真
●北海道芦別で思い切り雪遊びを楽しむ福島のこども達（右上）
●星槎箱根キャンパスを視察したエリトリア使節団（中段左）●大磯キャンパスに宮澤保夫専務理事を表敬訪問した RTC の学生たち（中段右）
●黒岩祐治神奈川県知事（左から 3 人目）を訪問したミャンマーの留学生たち（右下）

2015 年 3 月 23 日発行
一般財団法人 **世界こども財団**
〒 259-0111　神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2（星槎グループ内）
TEL. 0463-71-6046　FAX. 0463-60-3507　E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ：http://www.fgc.or.jp　Facebook：「世界こども財団」で検索！
印刷：フルサワ印刷株式会社　制作：岡村直実（JC ユニット）